

## 仏教壮年会連盟「非戦・平和」研修会

令和7年9月17日（水）18日（木）まで築地本願寺にて戦後80周年にあたり、戦争の悲惨さ、命の尊さについて改めて学び、現在も続く紛争について、仏教壮年としてどのように取り組むかを考え、教区（特区）連盟における非戦平和の取り組みに繋げるための研修会開催でした。

17日午後より本堂にて東京教区「平和フォーラム」に参加、広島県出身の被爆者運動のリーダーであり、2024年にノーベル平和賞を受賞した箕牧智之氏の講演と釈徹宗氏との談議、その後非戦・平和研修会の判別話し合いに移りました。評議員参加者24名、連盟講師4名の参加を3班に分かれての話し合いです。1班座長は 夏目健之介座長、2班陣内巧座長、3班小野原博座長を中心に話し合いが行われ、問題提起を連盟講師の高田篤敬先生から出して頂きました。1時間の判別話し合いでしたが、本願寺の戦争加担などその他活発な話し合いでした。

18日、2日目の朝全体会にて判別話し合いの結果を各判別に発表してもらいました。

午後より、千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて戦後80周年法要に参列しました。2日間の研修会通して得た事を、この機会各教区に持ち帰って仏教壮年会の取り組みの課題になれば良いと思います。

熊本教区 陣内巧